

基本認識および提言

平成 29 年 6 月 1 日

尊厳ある生活保障総合調査会会長 前原 誠司殿

慶應義塾大学経済学部教授 井手 英策

【基本認識】縮減の世紀に入り、自己責任の恐怖におびえ、他者に冷淡になった人びと

1. 自壊を続ける新自由主義イデオロギーとさまよう国際政治
 - 1) 先進国に押し寄せた緊縮財政とデysinフレの波
 - 2) 世界的に低下した労働分配率、没落する中間層
 - 3) 猛威をふるうポピュリズムと右傾化、自国優先主義、そして新自由主義の凋落
2. 「勤労」と「儉約」の美德を前提とした「自己責任社会」の崩壊
 - 1) 貯蓄ができなくなれば人間らしい「生」が置き去りにされる「自己責任社会」
 - 2) アベノミクスという空前の経済実験とオリンピック需要、それでも取り戻せないかつての経済成長、1%にも届かない潜在成長率
 - 3) 可処分所得のピークは 20 年前、世帯収入 300 万円以下が全体の 34%を占める一方、ほぼゼロ%になった家計貯蓄率
 - 4) ジニ係数、相対的貧困率、財政の再分配力、どこから見ても格差を放置する国家
3. 社会が分断され、仲間意識や他者への想像力さえをも失いはじめている日本
 - 1) 「犯人探しの政治」：だれが不正で非効率な濫費をしているかを暴き立てる政治
 - 2) 「選択不能社会」：自己決定できず、努力ではなく運で未来が決まる社会
 - 3) 「中間層の反乱」：生活苦にあえぐ中間層の低所得層バッシングと租税抵抗
 - 4) 「押し下げ民主主義」：弱者がさらなる弱者を攻撃し、自己防衛を図る民主主義

【提言】“All for All (みんながみんなのために) ~あらゆる生活者を不安から解き放つ~”

- <道筋> 「成長→自己責任→将来の備え」を「生活保障→満たし合い→将来の安心」に
- 1) 私たちは、経済成長を絶対視し、自助努力で将来に備える自己責任社会、「もっと大変な人がいる」と言って、人びとに我慢を強いる不幸の再生産を終わらせる
 - 2) 私たちは、税と給付とのベストミックスをつうじて、人びとが人生の不安を感じる時期に、痛みを分かち合い、喜びを満たし合う、“All for All”の社会を目指す
 - 3) 私たちは、「現金給付」から人間に共通のニーズである「現物給付」に力点を移しつつ、可能な限り所得制限をつけずに幅広い給付を行っていく
 - 4) 私たちは、対人社会サービスの供給主体である地方自治体に対し、自治を育み、人びとの安心を底支えできるよう、課税自主権の強化を進める

<理念> “All for All (みんながみんなのために)” が人びとを不安から解き放つ

私たちは、閉塞感に覆われた日本社会に対し、その歴史的なあゆみを大切な土台としながら、大きな変革の見取り図を示さなければならない。経済成長、格差是正、財政再建、これらすべてを目的から結果に変え、すべての生活者が将来不安から解き放たれるための道筋を力強く踏み固めていかなければならない。

1. 「勤労と儉約の新しい同盟」：「自己責任」から「分かち合い」へ
税という「分かち合いの蓄え」をつうじて、1) 何歳まで生きても、いつ失業しても、だれもが安心して生きられる社会を作り、同時に、2) 税の痛みを和らげ、3) 現物給付をつうじて雇用の機会を生み、4) 結果的に所得や納税者数を増やし、財政を健全化する→「勤労→貯蓄→成長」から「税による蓄え→生活保障→勤労のチャンス拡大」へ=自己責任への恐怖、財政破綻への不安から人びとを解き放つ
2. 「公正さ」の基準の転換：「お金の保障」から「尊厳の保障」へ
生活保護のうち、1) 生活扶助以外の部分を対人社会サービスに置きかえ、2) 屈辱を最小化し、3) 結果的に所得格差を縮小させつつ、4) 所得の多寡、障がいの有無にかかわらず、お互いが生活のニーズを満たし合い、だれも特別扱いされず、後ろめたさを感じずにすむ社会をめざす→「お金の保障」から「尊厳の保障」へと公正さの基準を転換する=救済される屈辱から人びとを解き放つ
3. 「経済依存」からの脱却：「人間を消費する経済」から「人間が乗りこなす経済」へ
生活の質を徹底的に高め、自己決定可能な社会をめざすことで、連鎖的に1) 消費を刺激し(過剰貯蓄の解消、消費性向の高い層への所得移転)、2) 雇用に創出し、3) 利払い費を抑え、負担を軽減する。お金が生き方を決めた「経済の時代」を、尊厳保障が経済を動かす「人間の時代」に変える=衰退への不安から人びとを解き放つ
4. 「新自由主義」との決別：「袋叩きの政治」から「温もりを育む政治」へ
“All for All”の思想は、1) 既得権をなくし、2) 行政の裁量性を弱め、3) 事務を効率化し、4) 他者や政府への信頼を強化する→新自由主義者の目標を先取りするだけでなく、モラル・ハザードを叫ぶ彼らとは反対に、信頼の好循環を作り、社会の温もりを育む=不信と疑念、犯人探しの負のスパイラルから人びとを解き放つ

むすび～未来を力づくで動かす政治を 一時の反発に怯まぬ強い意志を～

自己責任に疲れ果てた国民を置き去りにし、党への失望を絶望に変えるのか。人びとの不安と不安を紡ぎ合わせ、失望を希望に変えるのか。私たちはいま、重大な分かれ道に立たされている。先進各国でかつての選択肢が機能しなくなりつつあるなか、私たちに必要なのは、新しい選択肢を作り出す覚悟である。いまを生きる者の強い意志、選択肢を「選ぶ時代」から「創る時代」へと力づくでも変えていく、その決意、屈強な意志こそが未来を動かす。未来を変えるのは、断じて未来の人間ではない。私たちの意志である。